

## 令和5年度学校自己評価

番号	項目	評価	
		得点	評価
1-1	学校は、ホームページで情報を十分に公表できていますか	3.21	B
1-2	学校は、各種通信をとおして、十分な情報を提供していますか	2.79	B
1-3	学校は、各科に応じた特色ある教育を実施していますか	2.71	B
1-4	学校は、地域と連携した教育活動をしていますか	2.98	B
1-5	学校は、生徒の学力を伸ばす指導をしていますか	2.43	B
1-6	学校は、生徒の意欲を引き出す指導をしていますか	2.12	C
1-7	学校は、生徒理解に基づいた指導をしていますか	2.43	B
1-8	学校は、規律正しい生活を送る指導をしていますか	2.60	B
1-9	学校は、部活動が積極的に行われていますか	1.88	C
1-10	学校は、的確な進路指導をしていますか	2.45	B
1-11	学校では、校舎内外の美化が図られていますか	2.88	B
1-12	学校では、危機管理に対応した防災・防犯教育が行われていますか	2.26	C
2-1	職員は、服装や頭髪への指導ができていますか	2.67	B
2-2	職員は、あいさつ指導ができていますか	2.71	B
2-3	職員は、学習指導ができていますか	2.33	B
2-4	職員は、部活動指導ができていますか	1.62	C
2-5	職員は、学校が地域活動に取り組む指導ができていますか	2.12	C
2-6	職員は、通学マナーや交通ルールの指導ができていますか	2.45	B
2-7	職員は、生徒のボランティア活動参加への指導ができていますか	1.93	C
2-8	職員は、生徒がいじめやトラブルのない学校生活を送るための指導ができていますか	2.40	B
2-9	職員は、生徒が進路目標やその実現に向けての計画性を持てる指導ができていますか	2.38	B

A:3.3以上 B:2.3～3.3 C:1.3～2.3 D:1.3以下

## 令和5年度 各部の重点目標

### Ⅰ 総務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校訓「開拓者精神」に基づき、不断の挑戦や努力を尊重でき、地域社会を支え、貢献できる人材、地域の未来を切り開いていく人材を育成するという学校目標を実現するための基礎となる環境づくりを推進する。</li> </ul>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと貢献活動において専門学習の成果を生かした活動をおこない、地域の一員としての自覚ならびに、地域社会の活性化に貢献する力を身につける。</li> </ul>
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化を推進し、良好な学習環境づくりを推進するため、職員と生徒が清掃しやすい環境を整え、校内美化の徹底を図る。</li> </ul>
人権意識等	
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ後援会、PTAなどの関連団体との協力・協働関係を深化させる。</li> <li>・学校説明会、オープンハイスクールの運営を工夫する。</li> </ul>
特別支援教育	
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部学年と連携した学校運営をし、各行事においても職員全体が動きやすい体制を整える。</li> <li>・会議資料のペーパーレス化を推進する。</li> </ul>
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育の推進と職員の防災意識の向上のため、防災教育の工夫を図る。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの充実を図る。</li> <li>・学校だよりの定期的な発行や、行事ごとのHPやブログを更新する。</li> </ul>
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性的な定員割れが続いており、地域のニーズを分析した学校運営の再構築が必要である。</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンハイスクールの案内を例年より早く告知し、Web 申込出来る体制を整えた。市内6中学校へは、全生徒数準備し案内した結果、参加者が増えた。</li> <li>・ブログの更新を増やし、生徒の活躍や取組・成果、学校PRなど積極的に情報発信できた。</li> <li>・ふるさと貢献を通じて、地域のイベントにも参加し地域の活性化に貢献する力を身につけ、自己肯定感を育んだ。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP（ブログ）の充実と生徒募集の成果が出ていない。</li> <li>・オープンハイスクール実習内容の検討（中学生が参加したくなる授業の検討）</li> <li>・ゴミの減量化</li> </ul>

## 2 教務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着と主体的・協働的学習の積極的な導入を図り、生徒の適性・能力・進路に応じた教育を目指す。</li> <li>・「丹波学」を柱としてカリキュラムを運営する。</li> </ul>
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習を活用して、学習習慣の確立と義務教育段階の学習内容の定着を図る。</li> <li>・TT授業、少人数指導など生徒個々の能力に応じた学習を進める。</li> <li>・主体的・対話的、協働的学習を積極的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力・課題解決力等未来型の学力を養う。</li> </ul>
専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の公開授業週間を実施する。</li> <li>・農業クラブの大会の大会で実績を出す。</li> <li>・専門性の向上に繋がる資格取得を推進する。</li> </ul>
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹波学」を通じて、ふるさとを学び、郷土愛と自尊心を高める。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹波学」を通じて地域との連携を強める。</li> </ul>
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会を実施し、生徒について情報を共有し、必要に応じて合理的配慮を行う。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に委員会や研修会を開催し、情報の共有を図る。</li> </ul>
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業への参加、研究授業の実施を促す。</li> <li>・多彩な教育アプローチを知るために、教科、世代を横断した授業見学を促す。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹波学」の取り組みをHPに掲載したり、記者発表を行い、取材を依頼する。</li> </ul>
将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科目の学習を通じて経営感覚を持った農業人を育てる。</li> <li>・「地域未来」→「起業経営」→「課題研究」の学習の流れにより、地域を支え未来を拓く生徒を育てる。</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間でICTを活用した公開授業が増えた。</li> <li>・「丹波学」を通じて地域との連帯をはかり、新商品開発や丹波市の魅力を知ることができた</li> <li>・学習指導研修会で個々の生徒の特性について情報共有ができた</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業の授業見学の人数が少ない、さらにアナウンスを促す必要がある</li> <li>・タブレット活用の推進</li> <li>・多様な進路に応じた教育</li> </ul>

### 3 生徒指導部

基本方針	<p>夢の実現に向けて自立心や自律心を養い、基本的生活習慣を身につけ、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導するとともに、自信と誇りを持ち、社会のために貢献できる人材を育成する。</p> <p>学校安全教育の推進、教育相談の充実、健康教育・健康相談の充実、学校の環境衛生の維持に努め、心身共に健康な学校生活の確立を図る。</p>
自尊意識等	<p>生徒一人ひとりを大切に、生徒の的確な把握と内面的な理解に努め、心のサポートシステムの実践・研究を推進する。</p> <p>教科指導・特別教育活動および関係機関やキャンパスカウンセラーと連携し、多元的、総合的に生徒を理解し、いじめの未然防止と解消に努める。</p> <p>問題行動への計画的・継続的な指導と予防的な生徒指導に努める。</p>
人権意識等	<p>ヒト、モノ、時間を大切にできる態度を育て、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導する。</p> <p>基本的生活習慣（挨拶・清掃）を確立させ、安全教育を推進する。</p> <p>特別活動や学校行事に積極的に取り組み、活力ある高校生活を目指すとともに、自己の再発見や鍛錬の場となるように指導する。</p>
地域連携	<p>家庭や地域との連携を密にし、教職員の共通理解を図り指導の徹底を図る。</p> <p>学校からの配布物や保護者会などを通じて、本校の指導方針等についての理解や協力を求める。</p>
特別支援教育	<p>支援が必要な生徒の学校生活について、関係機関と連携して指導を行う。</p>
職員の協働	<p>全教職員の共通理解を図り、協力体制を確立する。</p> <p>地域行事への積極的な参加を推進する</p>
教職員の資質	<p>生徒の気持ちは「受容・共感」的に受けとめ、許容できない言動に対しては「指導・要求」していくことで、生徒の生き方・在り方に積極的に関わる。</p>
本校の魅力	<p>地域社会で、すすんで「挨拶」を行うことのできる環境づくり。</p> <p>氷上高校生としての誇りを養い、地域から信頼・期待される生徒を育てる。</p> <p>部活動、生徒会活動等の教育活動を地域に積極的にアピールし、地域住民の認知度を高め、学校全体のイメージと信頼の向上に努める。</p>
成果と課題	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会主体で行事（体育祭・桃陵祭）の見直しを行い、自己有用感を高める教育活動ができた。また、マスコミにも取り上げられ、地域に本校の良いイメージを伝えることができた。</li> <li>・生活実態調査の数値で本校の大半生徒が夢や目標を持てるようになった答えている。自己肯定感の育成につながっている。</li> <li>・挨拶ができていると8割の生徒が感じるようになった。</li> <li>・地域清掃など積極的に学校のイメージと信頼向上に努めることができた。</li> <li>・大きな交通事故がなかった。交通安全の意識の向上。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの使用時間が長くなっており、歩きスマホなど危険な使用をする生徒がいる。スマホのモラル教育の継続。</li> <li>・いじめの解消率 100%を目指していたが、現在は 66%である。今後の継続指導が大切である。</li> </ul>

#### 4 進路指導部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりが主体的に自らの在り方・生き方を考え、能力・適性に応じた進路選択と自己実現ができるように、学校教育活動の各段階を通じて効果的な進路指導の取り組みを行う。</li> </ul>
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員と協力して、教科指導はもちろんのこと学校行事、進路行事などを通じて進路意識を高める。また、教務、学年と協力し、基礎学力の向上に努める。</li> </ul>
専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的かつ効果的な進路 LHR を実施する。</li> <li>・インターンシップの指導を充実させ、社会的自立を促す。</li> </ul>
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアノートを活用し、自己理解を高める進路 LHR を実施する</li> <li>・就職希望者のうち 8 割強の生徒が地元就職を希望することから、進路行事を通して地元企業について学ぶ機会を充実させる。</li> </ul>
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアノートを活用し、勤労の義務と権利を学習する進路 LHR を実施する。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波市や地元企業と連携し、2 年次でインターンシップや職場見学、3 年次で就職フェアや応募前職場見学を実施し、地元企業を理解した就職指導を行う。</li> </ul>
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒の進路について、関係機関と連携して指導を行う。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に各学年と連携を図り、生徒の進路意識を高めた進路実現を目指す。また、教務部と連携し、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や大学等の学校説明会に積極的に参加し、情報を共有する。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP を通して、進路指導の様子をタイムリーに発信する。</li> </ul>
将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根差した専門高校として、将来地域で活躍できる人材を育て、地域と共に歩む学校を目指す。</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・部・科と連携し、インターンシップ等進路行事の充実を図れた。</li> <li>・ブログを通して進路指導の様子や成果を発信できた。</li> <li>・地域に根差した専門高校として地域で活躍できる人材を輩出できた。 (進学 58.0%、就職 39.5%、その他 2.5% 就職のうち地元就職 93.3%)</li> <li>・Google Classroom を利用し、進路アンケートや報告書の作成をペーパーレスで行うことができ、編集・統計などを省力化できた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県のキャリアノートを参考にしたキャリア教育のさらなる充実。</li> <li>・基礎学力向上におけたさらなる取り組み。</li> <li>・進路決定後の学校生活の送り方について指導。</li> <li>・進路行事の精選とデジタル化が進む中での効果的な情報提供の検討。</li> </ul>

## 5 農業部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある様々な体験活動をとおして、開拓者精神の高揚を図り、地域および社会で活躍できる人材を育成する。</li> </ul>
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で基礎的、基本的学力や技能を定着させるとともに、主体的な学習活動を積極的に導入し、課題解決能力等の学力を養う。</li> </ul>
専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会変化や産業の高度化に対応するため、ICT化など専門性を高める取り組みを行うとともに、生徒の社会的自立に向けた専門的な学びを高める。</li> </ul>
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科における「体験的な学習」や「実物を用いた教育」によって生徒の自尊感情や他者尊重の醸成を図る。さらに、地元丹波地域への関わりの中で、ふるさとへの学びを深め、意識の醸成を図る。</li> </ul>
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の実習や学習活動の中で、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、人権意識を高める。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表会や就農講座等で地域との連絡を密にとるとともに、地元の関係機関や企業と連携した教育活動を推進する。</li> </ul>
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに、配慮が必要な生徒に応じた実習指導の充実を図る。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動における部内の共通理解を図り、協働体制を確立する。また、部員の心身の健康維持を図る。</li> </ul>
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や幅広い分野での研修を積極的に行い、部員の専門性や実践力の向上を図る。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農場での日々の出来事や専門高校の特色ある学習活動などを発信し、開かれた学校づくりを進める。</li> </ul>
将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業教育を通じて生徒の専門性を高めるとともに、地域社会を支え地域に貢献できる人材を育成する。</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業クラブ県連事務局を担当することで、生徒の自主的な活動や事務局としての責任感などを身に付ける事ができた。</li> <li>・県庁緑化、外部での生産物販売実習や課題研究発表会といった各種研究活動発表の機会が設定できた。外部への広報活動も積極的に行えたと考える。</li> <li>・特に課題研究活動においては、昨年まで9つであった研究班を1つ増やすことができ、生徒のニーズに応じた学習内容の改善が行われている。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度 BYOD 端末の導入完成年度となるなかで、教室内での活用は可能であるが、実習圃場での端末利用などの施設整備ができていない。高度な端末利用と授業への活用ができる環境の整備が課題である。</li> </ul>

## 6 保健部

基本方針	生徒自らが、健康の保持増進に努め、心身共に健康で安全な学校生活を送ることができるよう実践的な能力と態度を育てる。
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断結果に基づき、生徒が自分の健康状態を理解し、自分自身の健康管理をする能力を育成する。</li> <li>・生徒を取り巻く健康課題「飲酒・喫煙・薬物乱用・感染症・性教育・自殺予防等」についての情報提供と学習の機会を持つ。</li> </ul>
自尊意識等	生徒自身が自分は大切にされていると感じられるような声かけや対応を心がけ、授業をはじめ、学校行事等の活動を通じて達成感が得られるよう機会を増やす。
人権意識等	自分はもちろん、他人や周囲の人を大切にできるよう、人権教育の中で取り入れられる内容を一緒に考えて取り組む。
地域連携	健康福祉事務所や市教委のSSW等と情報交換を行い、本校の健康課題や学校保健に関する課題について連携を図り取り組む。
特別支援教育	<p>特別支援教育コーディネーターや担任、学年とのこまめな情報交換を実施し、個に応じた支援を行う。</p> <p>年度初めのなるべく早い段階で特別な支援を必要とする生徒についての情報共有を全職員で行い共通理解を図る。</p> <p>支援の必要な生徒の実態を的確に把握してニーズに応じた支援を行う。</p>
職員の協働	<p>生徒の様子をこまめに情報交換し共通理解を図る。</p> <p>各学年、専門部が組織間で協力し連携して足並みのそろった対応をする。</p> <p>各種校内研修を通して、生徒対応、救急処置、災害対応等を学び、職員で共に協力して実行する。</p>
教職員の資質	<p>職員研修会等・資質能力の向上を図るための学びの場を企画実施する。</p> <p>学校事故や災害等の対応について意識の向上も含め継続して取り組む。</p> <p>保健室の環境整備を行い、個々の状況によって適切な対応ができるよう努める。</p>
本校の魅力	<p>ホームページ等を活用し情報発信の場として有効に使えるよう検討する。</p> <p>「保健だより」の発信、カウンセリングの日程、保健行事のお知らせ、保健的行事のブログ掲載を積極的に行う。</p>
本校の将来像	卒業後も自分自身の健康について関心を持ち、健康で安全な生活が送れるように正しい知識を持ち、リスクマネジメント能力を使い適切な行動を選択できる生徒に成長してほしいと願っている。
成果と課題	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を尊重し自分の心身の健康について関心が持てるよう情報提供と、学習の機会を持つことができた。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや担任、学年とのこまめな情報共有をして必要な支援を継続的に行うことができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間でのこまめな情報教育と共通理解のもと足並みの揃った対応ができていない。</li> <li>・生徒に寄り添ったきめ細やかな保健室運営。</li> </ul>

7 第1学年

基本方針	<p>「素直な人 思いやりの人 挑戦する人」を学年目標に掲げ、以下3点を基本方針とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素直に人の話に耳を傾けられる姿勢と態度を身につけさせる。</li> <li>・他者にも自分にも思いやりを持てる優しい心を育む。</li> <li>・各自が明確な目的意識を持ち、自主的・積極的な取り組みを積み上げ、充実した高校生活を「自ら」作ることができるよう支援する。</li> </ul>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属する学科で学ぶ内容と社会とのつながりを意識し、進路における自己実現を意識させる。</li> <li>・学科の授業を通して命を大切にし、命から学ぶ生徒を育てたい。特に実習を頑張る生徒を育てたい。</li> </ul>
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が企画する学年集会等を行い、生徒自身が主体的に、生徒同士で対話的に活動させ、コミュニケーション能力の向上を実感できるようにさせる。</li> </ul>
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導研修会を大切にし、個別支援計画、中高連携シート等を活用して、支援を要する生徒について、学年全体での支援体制を確立できるように努力する。</li> <li>・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会に限らず、常日頃から学年全体での連携、情報共有を行い協働支援体制を確立する。</li> </ul>
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の役割に責任を持ちつつ、幅広い視点から学年運営に携わる。</li> <li>・各種研修や研究会等に参加し、情報の共有化を図る。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年通信発行の定例化を図り、情報発信に努める。また、紙面の充実のため、生徒の学年通信への参加機会を設ける。</li> </ul>
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後に地域を支える人材を育成する学校。</li> <li>・地域に根差した学校。</li> <li>・地域に愛される人を育て、地域に愛される学校を作りたい。</li> <li>・問題意識の共有が必要</li> </ul>
成果と課題	<p><b>成果</b></p> <p>各種の委員会と綿密な連携を図り、生徒理解に努め、個に応じた対応をしながら学年集団を作ってきた。取組としては、学年集会を9回開催し、学年目標の共有や、学校生活(学習活動)への注意喚起の場として有効に活用することができた。また、学校生活の振り返りや、考査・行事等の日程(見通し)を徹底するとともに、保護者への情報発信のために学年通信を10回発行することができた。</p> <p>1年間の学校生活を通して、氷上高校に慣れ氷上高校生としての1年間をそれぞれの目標のもと、過ごすことができた。</p> <p><b>課題</b></p> <p>特別支援的な観点からの対応が必要な生徒も多く、個に応じたサポートが引き続き必要である。まだまだ中学4年生のような生徒も多いと感じるので、次年度は、「氷上高校2年生」として自覚を持った生活ができるように、さらに丁寧な指導を行っていきたい。</p>



8 第 2 学年

基本方針	<p>「One For All, All For One」を学年スローガンとし、基本方針は生徒自身が</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学校生活を楽しみながら他者を理解し社会性を身につける</li> <li>・自らコミュニケーション能力と各科の専門性を高める</li> <li>・自ら進路を切り開いていける資質・能力をつける</li> </ul> <p>ことを目的として活動を行う。</p>
専門性の向上 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、クラスの教育活動において ICT を活用し、所属する学科での専門性を高めさせる。</li> <li>・それぞれ所属する学科で学ぶことを基盤とし、進路選択・進路実現について意識を高めさせる。</li> <li>・インターンシップでの経験を通じて、コミュニケーション能力や社会性を身につけ、進路を切り開いていける資質と能力を向上させる。</li> </ul>
自尊意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行や体育大会、桃陵祭などの学校行事を充実したものにし、成功体験を積み重ねて自尊感情を高めさせる。</li> </ul>
人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権HR等を通して、アサーティブなコミュニケーションを学び、お互いを尊重しながら意見を交わす人間関係を構築させる。</li> <li>・学年行事、学年集会、丹波学の授業などクラスを超えたグループ活動を行い、協働する姿勢を身につけさせる。</li> </ul>
地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃やボランティアへの参加を促し、地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。</li> </ul>
特別支援教育、共同と交流学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導研修会、個別支援計画、中高連携シート等を活用し、支援を要する生徒について、学年だけでなく学校全体での支援体制を確立する。</li> <li>・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。</li> </ul>
協働体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年全体での連携、情報共有を図り、協働支援体制を確立する。</li> </ul>
教職員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの授業への参加、授業参観を促進し、実践力の向上を図る。</li> </ul>
本校の魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年通信発行の定例化（月 1 回）を図り、情報発信に努める。</li> </ul>
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を支える人づくり</li> <li>・地域から支えられる学校づくり</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <p>起業経営等の授業でのグループ活動や修学旅行のコース別班別研修や学年レクを通して、クラスのメンバーだけでなく学年全体でコミュニケーションを取る機会が増え、他者理解や社会性を身につけることができた。インターンシップの経験から、コミュニケーション能力や社会性が身につけ、自らの進路と向き合い進路実現に向けた取り組みを数多く取り入れることができた。体育大会や桃陵祭を通して、2 学年として学校の中心となる責任感を持ち、成功体験から自尊感情を高めることができた。学年通信を定期的に発行し情報発信を行うことができた。保護者との連携を密にして、支援を要する生徒への対応ができた。</p> <p>課題</p> <p>本格的な進路実現に向けての実践的な取り組みをさらに強化し、面接指導や小論文指導、教科等の指導を十分に行う必要がある。</p>

9 第3 学年

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者と連携を図り、生徒自ら進路を決定していけるように支援する。</li> <li>・ 生徒の能力や適性に応じた目標を意識させ、意欲的に高校生活を送らせる。</li> <li>・ 卒業学年としての自覚を持ち、学校生活を通じて社会性を身につけさせる。</li> </ul>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路指導部や担当者と協力して、将来の目標を明確にさせる。</li> <li>・ それぞれ所属する学科で学ぶことを基盤とし、進路選択・進路実現について意識を高めさせる。</li> </ul>
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育祭、桃陵祭などの学校行事を充実したものにし、成功体験を積ませて自尊感情を高めさせる。</li> <li>・ 学年集会や学年通信などで生徒の活躍を紹介する場を設け、学年全体での雰囲気づくりに努める。</li> </ul>
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年行事、学年集会などにおいて、クラスを超えたグループ活動を行い、お互いを尊重しながら意見を交わす人間関係や協働する姿勢を身につけさせる。</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域清掃やボランティアへの参加を促し、地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。</li> <li>・ 中学校への近況連絡の手紙など、学年全体での活動として設定し、連携強化に努める。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導研修会、個別支援計画、中高連携シート等を活用し、支援を要する生徒について、学年全体での支援体制を確立する。</li> <li>・ 保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副担任との情報共有、学年クラスへの参加を促進し、学年団全体での意識共有を図る。</li> <li>・ 朝学習やSHRの交代実施、学年主任、学年付きによる学年懇談の実施など、学年全体での連携、情報共有により、協働支援体制を確立する。</li> </ul>
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他クラスへのSHR参加により、自身のクラス運営を見直す機会とし、自身の指導に取り入れられる体制を作る。</li> <li>・ 互いの研究授業への参加、授業参観を促進し、実践力の向上を図る。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページやブログ、学年通信での情報発信に努める。また、学校側からの一方通行にならないよう、意見箱などを利用し生徒の意見を取り入れる。</li> <li>・ 中学校との連携、地域機関との連携強化により、本校の魅力を生徒からの直接の言葉で伝えられるようにする。</li> </ul>
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学してくる生徒の状況から、地域に必要な学校について再設定する時期に来ている。地域の現状と課題、情報収集を行い、そのうえで地域に根差した学校、地域で活躍できる生徒の育成を目指す</li> </ul>
成果と課題	<p>成果：学年団全体での協働支援体制が確立できたように思われる。          様々な行事において生徒のサポートを行うことができた。          進路決定後のモチベーション維持のため、学年・クラスにおいて様々な取り組みを実施することができた。</p> <p>課題：学年、クラス内での問題はなかったが、下級生やアルバイト先、また登下校中などにおいて、粗雑な言動・行動がみられ、社会に出た後の行動に不安が残る。</p>

10 生産ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業を通して知識や技能を身に付け、生きる力を養い地域の産業人を養成する。ふるさとの自然や文化を愛し、地域の課題解決に参画する態度を養う。</li> </ul>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教科の学習とその他の教科、丹波学や課題研究などを結びつけ、専門性を向上させる。スマート農業やトレーサビリティ等を意識した学習を通して社会の変化を柔軟に捉え、それに対応した知識と技術を身につける。</li> </ul>
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランドに触れるため、自ら家畜の飼育や作物の栽培に取り組む。</li> <li>・地域ブランドを生産しているプライドを持たせ、自尊意識とふるさと意識の醸成をはかる。</li> </ul>
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦断的な他学年との実習により、声掛け・指示の仕方などを学び、他者を尊重する精神や協調性、責任感などを育成する。</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベントや各種講演会などにも積極的に参加する。地域ブランドの栽培・飼育を行う中で、関係機関との連携や特産物等への学びを深める。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の状態を把握し、教員で情報を共有し、生徒個々の特性を理解したうえで個々の対応を行い、インクルーシブ教育の推進を図る。</li> <li>・生徒個人個人を注視できるように専攻別の少人数制の学びを展開する。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科として長期目標を設定し、組織としての活動を活性化させる。</li> <li>・週に一回は科会を行い、業務進行状況や課題、生徒情報などを共有する。</li> </ul>
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外でイベントを企画運営することで、計画や運営の機会を増やし、生徒と共に物事を作り上げていく力を育成する。</li> <li>・積極的な研修会や研究会への参加を促し、0から1を生み出す力と1を10に伸ばす力を身につける</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像や動画などの視覚情報を活用する中で、本校本科では何ができ、何を学び、どう成長するのかを分かりやすく伝える。</li> <li>・HPの更新頻度を増やし、イベント参加時のPRを積極的に行う。</li> </ul>
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一次産業を担う人材育成を主軸とし、地域に還元できる地域産業人を育成するための学科体系を形成する。</li> <li>・本校本科で学んだ生徒が地域を支え、本校を支える人材育成を目指す。</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小人数に分割した専門的な学びや授業の展開を、特に実習科目や2・3年生の授業で展開することができた。次年度BYODの完成年度になるので、更なる授業への導入や展開を進めていきたい。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に生産ビジネス科はどの学年も生徒数（入学時の受験者数）が少ないので、希望者数の増につながるような学科の魅力伝える機会を増やしていく必要がある。</li> </ul> <p>また、作物、果樹、畜産の3つの部門があるが、各部門で専門的な活動をより地域と共に進めて行ってほしい。</p>

## II 食品ビジネス科

基本方針	食品加工、食品製造、品質管理の技術を軸に栽培、販売の基礎を学習し、6次産業に対応した人材の育成。
専門性等	食品の製造や流通・食品衛生・食品化学の専門性を生かした実験・実習を実施。
自尊意識等	地域交流や小学生との交流授業を通して、生徒たちが地域での活動から学ぶ力や自己有用感を高めたり、自尊心を高めたりすることができ、働く力の育成につながる。生徒各自の目標達成のための取り組みを通して、自己を理解し向上に努める。
人権意識等	実験・実習を通して互いに協力し、思いやりを持って自他を高める態度を身に付けさせる。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発をし、地域とのつながりを強くする。</li> <li>・道の駅や地元イベントに販売実習のかたちで参加することにより、地域とのつながりを強くする。</li> </ul>
特別支援教育	特別支援推進委員会や担任と連携し、支援を要する生徒の共通理解及びわかりやすい授業実習に取り組む。
職員の協働	科の目標に対して科内の共通理解を図る。また、他科をはじめ、部、学年との連携を深める。
教職員の資質	食品に関する講習会等に積極的に参加し、個人の能力の向上を図るだけでなく、その知識の共有に努める。
本校の魅力	日常の実習などの情報をホームページで発信するだけでなく、原材料栽培から加工における校内製品の良さ（他には負けない商品）をイベントなどでアピールする。
本校の将来像	地域に必要とされるためにも、学科の目標でもある6次産業化に向けた人材の育成はもとより、商品の販売についてインターネット販売など全国に、本校の加工品を販売できる販売網の確立。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅（おばあちゃんの里）、丹波の森フェスタ、校内苗販売など、地域イベント等で本校加工品の販売実習を実施し、日々の学習活動のつながりを実感させ、接客を通して考える力やコミュニケーション能力を向上することができた。</li> <li>・黒井小学校児童との交流により、本校生徒の自己有用感が高まった。</li> <li>・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発をし、地域とのつながりができた。</li> <li>・日常の実習の様子をSNSで発信することができた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品関係の外部講師を招き生徒への出前授業を実施。</li> <li>・科単位での企業見学の実施。</li> <li>・実習でのタブレット使用におけるWi-Fiの環境整備。</li> </ul>

12生活ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域から学び 学びを地域に」をもとに「農」・「食」・「福祉」を体験的に学び、地域を創る生徒を育てる。</li> </ul>
専門性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全を第一として、安心・安全な生産物の提供を目指す。</li> <li>・座学と実習の学びを連携し専門性の学びに深みを持たせる。</li> <li>・生徒が誇りを持つ農場運営を行い、農業を学んで成長する指導に取り組む。</li> </ul>
自尊意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの成功体験をより多く構築させ、自尊意識を高める。</li> <li>・学年を横断した時間外総合実習の配当をおこない、上級学年が下級学年の指導をおこない、自尊意識を高める。</li> </ul>
人権意識等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習などで仲間と協力して取り組むことで協調性を養う。</li> <li>・交流活動や連携授業を通して社会性・他者理解する力を養う。</li> </ul>
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学んで良かった」「入学したい」「地域に愛される」を実現できるよう学習内容を実践する。</li> <li>・こども園との交流活動や地域での販売活動を通じ地域連携を行う。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年と科の連携を深めて情報共有をおこない、個々の生徒理解を図る。</li> <li>・支援学校との連携を通じて、特別支援教育の充実を図る。</li> </ul>
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の目標に対して共通認識を図り、課題解決に努める。</li> <li>・学科長会などを通じて、他科との情報交換・共有を図る。</li> </ul>
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会などに参加して個々の能力の向上を図る。その情報や技術を職員間で共有し、生徒に還元していく。</li> </ul>
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組みなどをHPに掲載し、学びの様子を発信する。</li> <li>・生産物を通して学科の魅力を発信する。</li> </ul>
本校の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上の取り組みより、他校や他科との差別化を図る。</li> <li>・在校生が学びに満足する、卒業生が学んでよかった、中学生が学びたいと思える学科の在り方を考える。</li> <li>・類型学習の成果と課題を検証する。</li> </ul>
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の取り組みをHP（ブログ）で情報発信できた。</li> <li>・類型学習（福祉と農業類型、食と農業類型）を2年生から実施することにより、専門性の高い教育活動ができている。</li> <li>・生活ビジネス科単独の野菜苗販売を実施し、地域に学科の特色をアピールできた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・類型学習での取り組みと進路実現との整合性。 （農業関係への進路実績が無い。）</li> <li>・HP(ブログ)の情報発信が生徒募集に繋がっていない。 （保護者・受検生のニーズに合った学科運営）</li> </ul>